

やめて、専門教育をうけた者のみをこれにあてるのも解決策の一つと考えられる。もっと多くの保母が、結婚生活と保母と両立させるよう合理的な新しい女性の職場として最上のものにしてゆきたい。

## 保育者に対する社会的評価 に関する研究

頌 栄 短期 大学

西 本 脩

### 研究の目的及び問題

この研究は、保育者の職の教育心理学的意味を明らかにするための試みの一つである。現代の社会の各層の人々が、保育者という職（その地位・身分・職務など）に対して、どのような考えを持っているかを実証的に明らかにしようとした。尚ここで云う保育者とは、幼稚園、保育所に於いて幼児を指導し保育する職業として、狭く限定された意味を持つものとする。

### 研究の方法

#### 一、第一次調査—保育者についての意見の蒐集及び選択

保育者に対する見方・考え方を調査するために、先ず保育者の地位、身分、職務、能力などに関する多数の意見を集めることが必要である。このため、某短大保育科学生及び幼稚園、保育所の教師、保母計六二名に、保育者に対して思い起すあらゆる意見を出来るだけ書いて貰った。その他、新聞・雑誌等からも意見を選び出し、合計約一〇〇種類の意見を集めた。これらを先ず、(1)保育者に好意を

表わしている意見 (2)中立と思われる意見 (3)好意を示していない意見に三大別し、これらを更に、ワングの発表している意見選択の一六の規準に照らして意見の選択を行い(註)、約一〇〇個の意見の中から二二個の意見を選択した。これらの意見を、好意度の高いものから順に示すと、第一表のようになる。(註)ワングの挙げて一六の規準については、波多野完治「現代心理学説研究」上(小学館 昭和一六年)の二二〇—二二四頁に紹介されている。

#### 二、第二次調査—選択された意見の客観的評定

前述の二二個の選択された意見は、私個人の主観によって選択されたものであるから、更に多数の者の意見を聞いて、果してこれらの意見が保育者に対する好意性を示すものであるかどうか、又その程度はどうかを客観的に検討しようとした。このために、二二個の意見を別々のカードに印刷したものを、某短大保育科二年生、幼稚園教諭計四五名に渡して、各意見の持つ好意度を十一段階に評定して貰った。即ち、一々の意見に対して、自分がそれに賛成か否かは問わず、純粹に客観的に判断して、その意見が保育者に好意を持った意見であるか、好意のない意見であるかを判定し、更にその程度を段階付けて貰うことにした。若し最も好意ある意見と思うならば10、最も好意なき意見と思うならば0、好意ありとも無きとも云えぬものならば5とし、更にその間に好意の程度によって、6・7・8・9或は非好意の程度によって4・3・2・1の各段階に評定して貰った。

その結果を、各段階における頻数にまとめ、中間値及び脱逸度を求めたのが第一表である。この中間値が、各意見の好意度を示すものと考えられる。

#### 三、第三次調査—本調査

第1表 保育者に対する社会的評価に関する研究

意見 番号	意見	好意度評定段階										好意度 脱逸度			
		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	Mdn	Q	
1	幼稚園の先生は愛情がなければできない	35	4	4	0	2								10.4	0.32
2	保育者の仕事はこの世の中で大切なものだ	32	13											10.3	0.39
3	保育者の仕事は尊い仕事である	30	12	3										10.3	0.47
4	保育者の仕事は率直的なものである	19	16	5	0	3	2							9.8	0.66
5	保育者は世話のかかる大へんな仕事である	1	13	21	7	2	1							8.6	0.58
6	保育者は頭のよい教養のある人がするものである	2	17	7	7	2	4	5						8.6	1.24
7	保育者の仕事をしているといつも若々しい	3	4	7	20	4	6	1						7.6	0.69
8	保育者は女らしいよい仕事である	5	10	15	11	2	2							7.5	0.86
9	保育者の仕事は明朗で愉快なものである	1	4	9	12	11	6	2						7.3	1.01
10	保育者は収入が少なくて気のどくだ	2	3	8	9	13	8	2						7.0	1.06
11	保育者は大学へ行かなくてもなれる			1	1	1	21	7	7	5	1	1		5.1	1.00
12	保育者の仕事も生活費を得るための手段にすぎない						5	11	12	8	5	4		3.5	0.83
13	保育者は嫁入前の仕事である						3	14	9	8	8	3		3.4	0.18
14	保育者になると世間しらずになる				1		4	11	8	6	10	5		3.3	1.40
15	保育者にはオルガンさえひければなれる						2	5	16	11	9	2		3.1	0.86
16	保育者は偉らそうにしている						2	7	12	11	8	5		2.9	1.02
17	保育者よりは小学校の先生の方がえらい					1	6	5	9	9	10	5		2.9	1.26
18	保育者は楽な仕事である					2	6	12	16	6	3			2.8	0.79
19	保育者は少しくらい頭が悪くてもできる					2	5	9	4	8	5	12		2.8	1.79
20	保育者は女の人なら誰でもなれる					3	3	7	7	6	12	6		2.7	1.44
21	保育者は女工さんよりましな仕事である					2	6	1	4	7	8	17		1.8	2.78
22	保育者は要するに子守りみたいなものだ							1	8	6	15	15		1.5	0.94

調査用紙は、前述の手続きによって得られた二二個の意見をプリントしたものを使用する。意見の配列はランダムになるように乱数表によって決定したが、その結果を意見番号で示すと、(6)(4)(17)(2)(6)(9)(15)(13)(19)(1)(3)(22)(12)(11)(8)(14)(21)(20)(10)(18)(5)の順である。この調査用紙を被験者に配布して各意見について賛成か否かをたずねた。賛成の場合には○印をつけ、反対ならば×印をつけ、賛否を決定しかねる意見には印をつけないことにする。尚意見の中には、被験者が公表することを憚る意見もあるから、内容をよく説明した後に用紙を被験者に渡し、用紙への記入は秘密に行わせて、記入が終れば、封緘葉書のように折畳んで糊付けして返すという方法を取り、性別、年齢職業のみを記入して貰い、無記名とした。これは回答に際して、警戒心、恐怖感、羞恥心が生じ回答が歪められるのを防ぎ、率直な回答を得るための配慮によるものである。

被験者は、大阪府下に居住する者で、第二表A及びBに示した如く、男女、各種の職業、年齢にわたる総数五十七名である。

結果及びその考察

一、各意見に対する賛成の程度

第2表 A 性・年齢別

年齢 性	年齢別					計
	~24	25~29	30~39	40~49	50~	
男	53	30	46	44	41	214
女	87	43	72	68	33	303
計	140	73	118	112	74	517

B 職業別

職業 性	職業別										計
	専門的	事務的	商業	技術的	半技術的	労働	無職	主婦	学生		
男	15	83	56	4	7	24	5	0	20	214	
女	6	40	51	6	15	25	75	65	20	303	
計	21	123	107	10	22	49	80	65	40	517	

第 3 表

意見 番号	性 別 (%)		年 齢 別 (%)					計 (%)
	男	女	～24	25～29	30～39	40～49	50～	
1	96.3	99.3	97.1	98.6	100.0	96.4	98.6	98.1
2	94.9	95.4	90.7	93.2	98.3	99.1	94.6	95.2
3	93.0	96.0	87.9	94.5	97.5	98.2	98.6	94.8
4	76.2	74.9	67.9	72.6	74.6	81.3	85.1	75.4
5	93.0	95.0	92.1	93.2	94.9	97.3	93.2	94.2
6	75.2	70.6	57.1	78.1	74.6	79.5	82.4	72.5
7	83.6	88.8	81.4	83.6	88.1	87.5	95.9	86.7
8	91.6	95.4	95.0	87.7	93.2	95.5	95.9	93.8
9	77.1	77.3	71.4	69.9	78.8	79.5	89.2	77.2
10	56.1	59.4	45.7	45.2	58.5	72.3	71.6	58.0
11	53.7	60.4	60.7	64.4	53.4	49.1	64.9	57.6
12	28.5	18.5	27.9	30.1	19.5	16.1	20.3	22.7
13	16.8	17.5	19.3	16.4	14.4	18.8	16.2	17.2
14	17.3	11.2	9.3	13.7	16.9	16.0	13.5	13.7
15	7.0	5.9	7.9	2.7	7.6	3.6	9.5	6.4
16	13.1	9.2	14.3	8.2	14.4	4.5	10.8	10.8
17	19.2	18.8	21.4	16.4	15.3	18.8	23.0	18.9
18	11.7	5.0	9.3	5.4	5.1	8.0	10.8	7.7
19	25.2	23.4	35.7	20.5	16.9	24.1	17.6	24.2
20	9.8	11.6	13.6	6.8	11.9	6.3	14.9	10.8
21	44.9	42.9	42.9	54.8	36.4	41.1	50.0	43.7
22	23.4	20.8	21.4	19.2	17.8	25.0	27.0	21.8

調査用紙に記載されている各意見について、被験者が賛成であるとして○印をつけた頻度を、性別・年齢別に%で示すと、第三表の如くなる。全体的に見た場合、頻度の高いものは、意見番号の(1)(2)(3)(5)(8)(7)等であり、頻度の低いものは、(15)(18)(20)(14)(13)(17)等となっている。

即ち保育者に対して尊敬し重要視し好意的な見方を表明する意見が比較的多く賛成を得ている。このことからして、現代の一般社会の人々の中には、保育者の仕事を世の中で大切な、尊い仕事であり、世話がかゝり大へんであって、愛情がなければ出来ない仕事、女らしいよい仕事であると考えている人が多いことがうかがわれる。然しながら、他面大学へ行かなくてもなれると考えている者(4)が過半数であることや、女工さんよりましな仕事(2)、子守りみたいなもの(22)、少し位頭が悪くても出来る(9)、小学校の先生の方がえらい(17)、嫁入り前の仕事である(13)等の考えを持っている者も相当にあることは、保育者に対する社会的評価の程度を考える上に、重要な問題であると思う。

次に男女別に、賛成意見の差異を見てみると、一般的に云って、好意的な意見では、男よりも女の方に賛成者が多く、非好意的な意見に於ては、男の方が多いうである。故に女の方が男よりも、保育者に対してより好意的であると云えよう。けれど、頭のよい教養のある人がするものと云う(6)の意見に対する賛成者が男よりも女の方に少いこと及び(11)の大学へ行かなくてもなれるや、(13)の嫁入り前の仕事である、(20)の女の人なら誰でもなれる等と考えている者が女の方に多いことは、女の方に、保育者の仕事を甘く見ている者がより多いことを示しているようである。又男の方では、保育者の仕事を女工さんよりまし(2)、子守りみたいなもの(22)、楽な仕事(8)、頭が悪くても出来る(9)等と考えている者がより多いことも、男の保育者に対する認識不足を表わしているようで、一考の余地があると思う。

年齢別に見ると、大雑把に云って、二四才以下の青年男女が最も非好意的で、保育者に対する好意的、尊敬的、重視的な意見(1)か

ら(10まで)に対する賛成者が最も少なく、その後四〇才台までは、年齢が大きくなるにつれて、賛成者が多くなっている。又(22)(21)(19)(18)などの非好意的、軽視的な意見に対する賛成者は、年齢と共に少くなり、三〇才台が最も少く、その後は再び多くなっている。故に三〇才台、四〇才台が他の年齢層に比べて、保育者に対してより好意的であると云えよう。二四才以下の青年男女が最も非好意的、非尊敬的、軽視的であることは、その(6)頭のよい教養のある人がするもの、に対して反対が多いこと、(19)頭が悪くても出来る、に賛成者が多いことと共に、問題であると思う。勿論この年齢の青年男女は理想に燃えており、反面子供を育てた経験を持っていないので、保育者に対しては非好意的になるのは当然だと考えられるかも知れないが、この年齢層の中には、将来保育者になる可能性のある者も含まれている故、これらの青年に対する、保育の重要性、保育者の重責等についての啓蒙が必要であるように思う。又五〇才以上の者には、(2)世の中で大切なもの、(5)世話のかゝる大へんな仕事、の好意的な意見に対する賛成者が、他の年齢に比してやや少く、反対に(22)(20)(18)(15)等の非好意的、軽視的な意見の賛成者がより多いことにも問題があるように思う。この人々には、昔からの幼稚園や託児所の保母についての古い觀念が未だ残っていると云えよう。これらの古い觀念を改めさせるための啓蒙が必要であらう。

## 二、各被験者群の平均の好意度

被験者群が異なるにつれて、保育者に対する見方、考え方がどのように変わるものであるかについては、一、の考察によっても或る程度知り得たが、これ丈では未だ不十分である。と云うのは、各意見に賛成する者が何%と云っても、それぞれの意見の有する好意の程度が異なるから、等しく保育者に好意的な意見であっても同等に扱

第 4 表

好意度	年 齢	~24	25~29	30~39	40~49	50~	計
		男	7.21	7.45	7.49	7.60	
女		7.45	7.58	7.78	7.67	7.35	7.58
計		7.35	7.53	7.66	7.64	7.47	7.53

る(9)という意見を持っているのだと云うことが出来る。

次に男女別の傾向は、表で明らかのように、五〇才以上の者の場合を除いて、各年齢共に一般に女の方が男よりもやや好意的である。

このことは考察一に於ても述べた通りである。年齢上から見れば、一般に二四才以下の青年男女の好意度が最も低く、その後段々好意的、尊敬的になるが、男の場合は、四〇才台を頂点として、その後はやや好意度が減るようである。女の場合は、三〇才台が最も好意的で、その後は年齢が増すにつれて好意的でなくなってくる傾向が見られる。四〇才台の男、三〇才台の女と云えば、現在その子供を幼稚園や保育園に通わせている園児の両親や最近、幼稚園保育園を卒業した子供の両親が多いであらう。したがって、保育者に対してより好意的、尊敬的な考えを持っているのであらう。その後好意

うことが出来ないからである。

そこで、被験者群別の平均の好意度を計算した。第四表がそれである。この表は、各被験者が賛成した意見を、それぞれの好意度に換算して、その平均を計算したものである。

この表によつて、先ず全被験者の好意度を見ると、七・五三となつており、好意度の中央値5よりも大であるから、一般的に云つて、世間一般の人々は、保育者に対して、より尊敬的であり、重要視する考え方をしているように思われる。大体に於て、好意度七・五あたりの「保育者の仕事をしているといつても若々しい(7)」「保育者は女らしいよい仕事である(8)」「保育者の仕事は明朗で愉快なものであ

度が減少するのは、前述の如く、保育者に対する昔からの古い觀念から脱し得ないからではなからうか。

### 結 語

以上考察してきた如く、保育者に対する社会的評価が近年は、一昔前の子守りのな考え方に比較して、可成り高くなってきたようであるが、未だ充分であるとは云えない。今後保育者の社会的地位向上のために、我々が機会あることに啓蒙運動をすることが必要である。と共に、現職の保育者諸姉が更に自己研鑽

## 發表第 2 日 目

# 幼児の造形表現に於ける

## 一 考察

ゆかり文化幼稚園

藤 田 復 生

幼児の造形表現に於て、無意識な表現から意識的な表現に發展し、更に統一された表現へと發展する事は云うまでもない。この過程に於て、表現内容と表現形式に、多少とも意識とか、或は何等かの意味を認め得る、満四歳から五歳児を中心として、その表現を基として、幼児の生活経験が如何なる感じ方をされ、又表現に如何に表れ、更に造形表現の發展過程が如何に見られたか、又更に幼稚園

を重ねて、一般社会の人々からその真価を認められるよう努力することが大切である。保育者養成の学校では、更に質のよい保育者を世に送るよう努力せねばならぬし、園の経営者は可能な限り、保育者の待遇等もよくして、人格識見共に立派な人々が安んじて保育に携われるようにしよう。かくして保育者の質をよくし、その社会的地位を向上させることによって、保育を受ける子供達の幸福が一層増進せられるであらう。

に於ける造形教育の指導方法を如何に確立して行くかが本研究の目標である。

これを要約すると、次の四項になる。

- 一、幼児のものの観方、感じ方
  - 二、幼児の造形感覚の分類
  - 三、幼児の造形表現に於ける發展
  - 四、幼稚園に於ける造形教育指導の研究
- 一、は幼児期の生活経験領域に於ける、物、心両面に対する感じ方、観方、とらえ方について
- 二、は感じ方、表現の分類と概別である。
- 三、はこれらの分類による造形表現の發展經過の考察である。
- 四、は造形教育の立場からの、指導方法の研究である。
- 今回は發表時間の都合で、第一と第二の問題を総合して述べたいと思う。

これらの考察対照は、東京都世田谷区、砧町、成城町、祖師ヶ谷